

「俺は自民党員だが、今回は下野したほうがいい」

「国民党政では農家を統けられないと」「今回ばかりは自民党を減らしたい」。米価暴落に直撃されている東北の米どじい・青森県十和田市では、総選挙を目前にして農家から国民党農政への怒り、日本共産党への期待が広がっています。

日本共産党中央委員会前市議は17日、米農家の男性(67)を訪ねて、政府による過剰米買い入れや価格保障・所得補償の実現が書かれた農業問題の「しんぶん赤旗」号外を手渡して対話をしました。男性は「今年は燃料の油の値段が高く、農家は大変だった。それに加えて米価の暴落。60円1万円を切ったら赤字だ」といいました。

舛基さんと党上十二地区委員会の中野渡(むちのわたり)常任委員はこの間、農家と精力的に対話をしており、「この米価ではやっていけない」「このままでは農家も地域もつぶれる」との

米どころ 米価暴落に怒り

青森・十和田

悲痛な声が多数寄せられています。



農家の男性(右端)と対話する(右2人目から)小笠原、舛基、中野渡の各氏=17日、青森県十和田市

2人は岡田、小笠原良子(小笠原良子)は日本農業を守り発展させる市議とともに別の農家とも対話を。この男性も米価暴落について、「市が赤字の半分を補助してくれる」とことになつたりに声をかけてほしい」と訴が、半分では間に合わない」とため息をつきます。3人が、料を受け取りました。